

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970201034		
法人名	有限会社 邦史会		
事業所名	居宅介護複合施設 うるしばら グループホーム 青の蓮 1丁目		
所在地	栃木県足利市福居町843		
自己評価作成日	平成24年9月23日	評価結果市町村受理日	平成24年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体の医療を活かした介護・医療との連携が図れている。定期的な往診の他に急変時は昼夜を問わず医療支援が受けられる。看取りも行っており夜間はオンコールにて看護師の対応もある。家族の面会も自由であり一緒に泊まる事も出来る。また、地域との連携も出来ており自治会や老人会との交流も図れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市南西部の比較的閑静な地域に位置している。以前から当地域の拠点だった病院が、患者家族の介護の困難さを痛感し介護老人有料ホームを建設し、その後グループホームを三つの階に3ユニット開設したことに始まる。「看取り介護に対する指針」を作成し、家族と良く話し合いながら入居者が重度化した場合は、医療スタッフが働く部屋の近くに部屋替えをして貰い、兼務の看護師とともに最後まで看取れる体制になっている。また、運営推進会議に地元の自治会長、老人会長、民生委員等に毎回出席頂き、地元の情報やアドバイスを頂いたり、散歩の時には近隣の方に声を掛けて貰うなど地域との関係は良好である。さらに、当ホームの基本理念を各フロア毎に職員全員で話し合い、人・義・礼・知・信の精神に基づき作成、平成18年度には、「あいさつから始まる地域との触れ合い」を職員全員で作成し毎日のケアに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念・運営理念をスタッフルームに掲示し朝の申し送り時に音読することによって共有・実践している。	企業理念を基に、各フロアーの全職員で話し合っ、人生の先輩である入居者を敬う趣旨の当ホーム独自の理念を作成した。この理念を毎朝の申し送り時に唱和し理念の意味を確認し日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内自治会として回覧板や夏祭り・地域防災訓練への参加などを行っている。また、施設内での行事(納涼祭・クリスマス会・カラオケ会・介護教室)などに参加して頂いている	地元自治会や当ホームの行事に相互に参加しあっている。散歩の時などに近隣の方が声を掛けてくれたり或いは道路の拡幅等、自治会の役員が協力的である。さらに近隣の小学校や幼稚園との交流も活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域対象の介護教室で認知症を取り上げ理解や対応の方法などを勉強している。また、運営会議時に認知症についての質問などにも説明を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議で活動報告をおこない、利用者・家族・地域の要望等を伺い実践し成果の報告や意見を伺っている	入居者、家族、自治会長や民生委員等の地元代表、市職員、地域包括センター職員を構成員として開催しており、自治会長等は毎回出席して頂き前向きなアドバイスなどを発言されている。この会議での提案で地域での介護教室などを開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き日常の活動報告を行っている。疑問点などはその都度電話や直接担当者から対応して頂いている	運営推進会議で情報を頂く他に、日常的に電話で質問をしているが迅速に対応して貰っている。また、当社の職員2名が介護認定の会議に参加しており情報を得られるなど市とは良好な関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体での勉強会や毎月の会議で身体拘束廃止に向けての知識を学んでいる。が出入り口の開閉(暗証番号)が拘束対象の理解が全職員が出来ていない。日頃から手動での開閉に努めている	毎日各フロアー毎に、ベット柵などの身体拘束について話し合っている。また、言葉による拘束についても職員をその都度指導している。さらに、毎月毎の会議の他年1回勉強会を開催し、趣旨の徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体での勉強会や毎月の会議で身体拘束廃止に向けての知識を学んでいる。虐待の知識を得る事でスタッフ同士見逃す事がないように注意している		

グループホーム書の蓮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいたり利用したい方には管理者が対応しているが、権利擁護制度の理解は全スタッフが必ずしも理解しているとはいえないので学んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類等の説明を十分に行い疑問点などにはその都度説明を行っている。制度改正時は文章で配布・説明を行い同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けているが今まで利用はないが、家族面会時に不満・苦情・要望が言えるような信頼関係を築いている。要望があればその都度対応している	当ホームでは面会に来る家族が多く、その際に介護に関する要望が多く寄せられておりその都度対応している。また、納涼祭やクリスマス会などの行事の際にも要望を聞かせて頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い業務の見直しなど必要に応じて行っている。管理者の判断で行う事もあるが報告は必ず行い代表者の意見を伺っている	毎日の各フロア毎の打ち合わせの際に職員からの提案があり、管理者に繋げている。最近では、介護度が入居時よりも上がっている入居者が多いので、勤務時間も入居者の生活状態に合わせたものにしたかどうかという提案があり採用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営セミナーなどに参加し、管理者・職員のモチベーション向上や将来を担う人材の育成を目的に年2回の人事考課制度を実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識と技術向上に努め、質の高い介護サービスを提供する為に社内研修・外部に研修参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	足利市医師会、その他の団体が主催する地域合同の研修に参加し質の向上を図る		

グループホーム書の蓮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前必ず本人と面談し、どの様に生活していきたいか、何を望んでいるのかを受け止め相手にうけ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に今までの苦労やどの様な事が困っていたのか具体的に伺っている。入居前まで利用していた担当者にも情報を頂きサービスに反映させている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が一番困っておりその為にどの様な事が対応出来るかを見極め必要があれば他サービスの紹介を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶入れや食器拭き・洗濯たたみなどの家事を見守りのもと手伝ってもらっている。季節の行事について・子育て・仕事について尋ねる事で多くの知識を与えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日・結婚記念日・父の日など家族と共に祝いしている。家族対応の受診の際に様子などの情報提供を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通っていた理容室にかかれるよう支援を行い入居後も知人の美容師さんが来館され居室にてカットされる場を提供している	入居者の知り合いの近隣の方や教え子などが時々面会に来てくれている。また、馴染みの美容院には家族が連れて行っている。さらに、入居者がお店を指定すれば職員が連れていくなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の中でトラブルになりそうな際はさりげなく仲介したり耳の遠い方のコミュニケーションの仲介をして孤立感を持たないようにしている		

グループホーム書の蓮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により退去になってもこれまで築いた関係を大切にし馴染みのあるスタッフ同士で好物だったものを持参し定期的に面会に行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を傾聴したり家族の話から希望・意向を把握している。本人の言葉以外の表情や行動なども情報として捉えられるよう職員が関心を払っている	思いを訴えられる入居者が少なくなっているのが現状だが、夜勤などで一対一になった際にお茶を飲みながら思いを聞くようにしている。介護度が高い入居者は言葉に出しづらいだけなので感情を把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話、家族よりの情報などからも本人の生活歴を把握し本人に合った支援が出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの利用者の様子に職員全員が関心を払いADL・バイタルサイン・好み・能力などの把握に努めその変化にも注意を払っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月70ア-会議を行い一人ひとりについて問題点や課題をみつけサービスの見直しを行っている。家族からの意見があった時はサービスの変更を行い速やかに対応している	ケアマネが原案を作成し、毎日のスタッフ会議で何か問題がないかを話し合っている。家族には、半年に1回はモニタリングを行い書面や口頭で説明している。家族からは入居してから笑顔が出てきたなどと感謝されることも多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に本人の1日の状態を細かく記入し1日の様子や心身の状態の変化などの情報を共有している。その情報をもとに統一してケアが行えるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下に伴い重度化した利用者には特浴での対応を行っている。また、併設施設での催し物にも参加している。医療職と連携し入退院の支援も行っている		

グループホーム書の蓮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などから地域の情報を把握している。神社のお祭り・文化会館や公民館のお祭りにも参加している。そうした機会を増やしていけるようにしたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月2回の往診、必要に応じ往診・字助言・指示を受けられる。主治医を通して紹介してもらい、必要な医療を受ける事ができる	入居時にかかりつけ医を当ホームの主治医に変更する入居者は、三分の二ほどだが、主治医がかかりつけ医と情報を十分を取っているため、連絡体制は万全である。他の専門医に受診する場合は、家族の対応が原則だが職員も同行するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時看護師へ状態を報告し主治医の指示にて処置対応してもらっている。夜間異常時はオンコールにて対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での生活の様子を伝え定期的に面会に行き状態の把握に努めている。退院後の受け入れについても施設内で出来る事、出来ないことを病院に伝えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の家族(本人)の意向を書面にて確認しチームで共有出来る様にしている。実際重度化した場合、ムンテラを行い納得いくまで話し合い終末期に向けて同意を頂きチームで情報を共有し支援している	当ホームでは、看取り介護に対する指針を作成し、入居時に家族に最後まで面倒を見る方針であることを説明している。また、看護師5名が兼務で配置されており、重度化した場合は、医療スタッフの部屋の近くに部屋替えするなど24時間オンコールの体制で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講座を受講しAEDの使い方・人口呼吸の仕方など学び急変時の対応を学んでいる。繰り返しの訓練で身につけていきたい。また、施設内においても定期的に勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し避難誘導や消火器の使用方法を訓練している。地域の避難訓練にも参加している	当ホームの避難訓練には、地域の方にも参加を呼び掛け、消火器の使い方などを見て貰っている。また、数年に1回ある地域の避難訓練にもスタッフが参加している。さらに、災害時用の備蓄として水、パンなどを用意している。	各フロアとも夜勤時には、職員が一人になることもあり、スタッフの引き継ぎ時や全体会議の際に、職員間で災害用機器の使用手法や緊急連絡体制の確認などを今後行うことを期待したい。

グループホーム書の蓮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての勉強会を施設内研修において定期的実施し職員が意識を高めている。運営理念に「人を敬う」を掲げ毎朝の申し送り確認している	入居者の尊厳を尊重する意味からも、トイレのドアをアコーデオンなどにするようにしている。各部屋のドアは基本的に閉めるようにしている。また、「さん」付けでお呼びするのが原則だが、本人や家族の意向で名前で話すこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の生活歴を把握すること、また本人の表情や行動から思いや希望を察するように努め自己決定出来る様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の介護を常に意識し一人ひとりのペースに合わせた支援に心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時季節感などのアドバイスの支援を行い衣類を本人に選んでもらっている。入所前行きつけだった美容院への外出介助を支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事提供の際本人の好みの物など追加して提供している。少人数(個別)対応にて外食など行っている	当ホームではご飯、味噌汁、おやつは作るが他の食材は専門業者が、当施設内の調理場で準備している。入居者がメニュー以外のものを希望した場合は随時対応している。また、敬老の日などの行事がある場合は特別なメニューを要請している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態や食事・水分量の把握を行っている。食事量の少ない方に栄養補助食品を利用し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け・一部介助又は全介助を行い、義歯は1日1回預かり消毒している		

グループホーム書の蓮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに本人の状態にあった支援を行っている。本人の様子などから尿意などを察し、さりげない誘導を行っている。声掛け介助に関しては自尊心に配慮している	排泄チェック表に基づいて声かけや誘導等を行っている。少しでも立位が可能であれば介助をして、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・ヤクルトなどを取り入れ対応している。腹部の温めやマッサージを行ったり体操なども取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った入浴対応している。入浴の順番などのこだわりにも配慮している。入浴拒否のある方に関しては本人のタイミングに合わせて職員を変え対応している	1階の入居者には毎日声掛けをしており、午前でも午後でも入浴は可能である。福祉用具を使い、入浴剤なども利用している。2・3階の入居者には当施設内の特浴を週3回ほど利用して貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態により自室にて臥床して頂いたりソファにて休まれたり傾眠されている際は掛物の提供や見守りを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬説明書がスタッフルームに置いてあり薬の目的や副作用・使用法など確認できる。薬変更時は個人記録に記載し職員全体で把握し様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を把握すること、家族よりの情報より得意な事、興味のある事を把握し活躍の場を持ってもらう(ソロバン計算・歌・カルタなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により職員と一緒に個別に買い物に出掛けたり、地域のイベントに参加している。状況によりホロー揃っての合同外出も行えている	日常的に近隣の公園や神社等の周辺を散歩しており、少人数だが買い物や市内のコンサートにも出掛けている。隣の公園でお祭りがある場合は参加している。また、外出が困難な入居者のためにお茶会を開いている。	

グループホーム書の蓮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾のもと金銭の所持をしている方には買い物時の所持金残高確認を職員2名で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族等への電話の取次ぎを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・風呂の場所がわかりやすい様に掲示してある。季節に合わせた歌の歌詞や掲示物を張り、季節館を感じてもらう。換気やエアコンにより心地よく過ごしてもらっている	廊下には穏やかな絵画や当ホームの行事の写真が掲示されている。また、ソファは高低差がある物が用意され入居者は、好みのところで過ごしている。隣の公園からの幼児の歓声が聞こえることもあり入居者を楽しませている。また、暖かみのある照明が落ち着いた雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んだソファど思い思いにくつろげる場所がある。他フロアの利用者との行き来を行い交流している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人に応じた家具、ベッドの配置や馴染みの物に囲まれた自室がある。家族の写真・自筆の絵画を掲示するなど好みの物に囲まれている	ドアの入口は入居者の名前だけでなく、写真も掲示されており間違わないように工夫されている。ベッド、タンス等は備え付けだが、家族の写真、人形、テレビ等好みの物が持ち込まれ過ごしやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかるように張り紙や写真を掲示している		